



環境負荷低減めざす

県プラスチック成型協同組合
理事長

いけぎ けいじ
池木 啓仁さん(66)



「リサイクルや材料の開発といった業界の努力も知ってもらえれば」と話す池木啓仁さん＝田原本町富本の池木プラスチック

自動車部品や半導体関連製品などを手掛ける「池木プラスチック」(田原本町)の会長。昨年5月には、県プラスチック成型協同組合の理事長に就任した。

同社は昨年11月、環境マネジメントシステムに関する国際規格「ISO14001」を取得。新棟を増設した本社工場や香芝工場に、24台の最新鋭設備を導入し、生産効率を上げることで電力や廃棄物削減などに取り組んでいる。

社内意識の変革では、まずは幹部を中心にエコ検定の合格を目指している。

「他社との差別化を図るため、IT化や最新機器の導入などを先駆けてきた。今は事業的にも、環境負荷を低減する志向を企業活動に根付かせなければならぬ」と話す。

メーカーなどの取引条件に環境ISOの取得が含まれるなど、下請け企業を取り巻く状況も変化。材料や品質を証明できる社内体制の整備を求められ、「相手先からの、環境対策がとられているかの調査や要求にこたえようと、ガイドラインやシステムを構築してきた」という。

一方、大手メーカーなどとの高温耐熱や電磁波を防ぐ材料開発にも意欲的に取り組む。「世の中や顧客が要望するものにトライしたい。不良率を減らしたり、



4月から本格稼働する新工場＝同(同社提供)

2次加工を省けるなど、高性能の材料は結果的に環境対策につながる」と意気込む。

組合理事長としての顔も、のぞかせる。「自社で培った体験やノウハウを伝えて、1社でも多くの会員の役に立ちたい。新たな材料が開発できれば、優先的に販売もできる。先頭を切って組合の底上げをしていきたい」

海洋プラスチックごみ問題が何かと取り沙汰され、レジ袋有料化などでプラスチックや業界に対する風当たりは強い。だが「プラスチックがなければ、今のようないろんな生活は送れない。その一端を担っている自負がある。植物由来のバイオマスプラスチックや、微生物が分解するプラスチックもある。そういった材料の種類や業界の努力を知ってもらふことで、イメージを少しでも良くできれば」と訴える。